

平成24年度第1回県立長野図書館協議会概要

1 日 時 平成24年9月20日(木) 9:30~12:00

2 場 所 県立長野図書館第1会議室

3 出席者

<委員(五十音順)> 飯島貞夫委員、楠直樹委員、小林いせ子委員、田中春海委員、
玉城司委員、若林恵実子委員

<県立長野図書館> 寺沢館長、須田次長兼総務課長、東方副参事兼企画協力課長、
北原副参事兼資料情報課長、関専門幹兼資料係長、長田専門館兼
担当係長、柳沢情報係長、町田主幹、内山主幹、北村主査、篠田主任

4 会議次第

(1) 開会

(2) 館長あいさつ

(3) 会議事項

ア 県立長野図書館の事業実施状況について

(ア) 図書館概要について

(イ) 県立長野図書館協議会委員の公募実施について

(ロ) 雑誌スポンサー制度の実施状況について

(ハ) 県立長野図書館関係広報について

(ニ) 県内公共図書館建設の状況について

(ホ) 図書館における指定管理者制度の導入状況について

イ 意見交換

(4) 閉会

5 会議の概要

(1) 県立長野図書館の事業実施状況について

委員・事務局職員自己紹介

事務局資料説明後、質疑応答および意見交換

<小林会長>

財政状況の厳しい中、県立図書館の役割について考えながら、より良い方向へ行くよう
努力していきたい処、ご意見をお願いしたい。

<玉城委員>

概要9P マイクロフィルムの近世資料について、国文学資料館所蔵分とあるのは、図書館

にある原資料のうち10点分のマイクロフィルム化を国文学資料館が行い、マイクロフィルムのマスターは資料館が持ち、原資料とマイクロコピーを図書館が持つということでしょうか。

<内山主幹>

そのとおり。全資料の内マイクロ化は一部なのでこうした表記となっている。

<玉城委員>

今後の課題として、いいとこ取りされても全体が見えてこない。資料館も独法化されて財政的に厳しいと思うが、原資料を保存する所で全部の撮影をするようにきちんと意見を伝えて欲しい。

<若林委員>

概要13P 調査相談について、来館者の口頭相談が減り、Fax・メールが増えているが、実態としてはどんな様子だったのか。また、土日の利用者は前年と比較して変化があったのか。

<柳沢係長>

昨年度は工事による2カ月の休館があり、その間の相談はFaxかメールで受け付けたため、このような結果となった。

<須田次長>

土日の利用についてはほぼ同程度。

<若林委員>

学校の研究資料として利用しているが、他の図書館に無くてもここには専門分野が揃っており、必要な本を見つけることができる。敢えてそうした声が寄せられることは無いかもしれないが、ありがたいと感じている。

<楠委員>

前回課題解決型サービスについて聞いたが、具体的な取組は。

<柳沢係長>

昨年度の後半から、レファレンスの中からより重点となる分野や本を抜き出してコーナーを設置するなど、手に取りやすい工夫している。網羅的に収集した中から抽出してみると、もっと収集の必要も感じられ、また電子データも弱い。今後予算要求してまいりたい。

<館長>

概要15Pの企画展示も、ある意味課題解決に繋がるのではと考えるので、工夫した取組みを進めたい。

<楠委員>

指定管理とは民間委託のことか。他機関ではデメリットも聞えるが、どんなメリットがあるのか。

<次長>

イメージでは同じだが、委託よりも縛られずに自由度が増して運営できるのが指定管理

制度。例えば、岩手県では雇用や運営事業の内容まで行っている。結果開館日数を大きく伸ばした。(休館日月1日)パート職員を増やし40名臨時採用して対応している。

<田中委員>

当NPOでも子どもの広場を指定管理で運営しており、経費も厳しいので工夫している。

東京都の区立図書館でパートで働く知人に聞くと、イベントの開催など人を集める工夫をしているとのこと。県立図書館の役割に馴染むかは疑問を感じる。

<小林会長>

地元の千曲市では指定管理制度導入したものを、また市の直営に戻す動きもあると聞いている。知人が九州で図書館の指定管理に携わっているが、細かい気配りもしている。相互に必要なことをよく理解して行うことが大切。

概要の沿革を見ると昭和55年度に50周年を迎えている。今後記念誌の発行などは行うのか。

<館長>

昭和4年を起点とすると83年目に当たる。節目の記念事業として今後考えていきたい。

<小林会長>

企画展の内容に利用者の意見は反映されているのか。

<東方課長>

内容は、企画展示委員会と企画協力課で決めるものの二本立て。直接の要望を受けるのではなく、しん酌することで反映させている。

<小林会長>

アンケートを行うなど、意見を吸い上げる道筋をつけることが親近感を増すと考えるので、工夫して欲しい。

スポンサー制度は今は募集していないのか。また、今後利用の増加が見込まれる団塊の世代への対応は。

<北原課長>

スポンサー制度の導入に際しては年度ごとの区切りとしたが、通年募集についても検討している。

<次長>

毎日の利用の様子からも、知的欲求は中高年層の方が高い。生涯学習の場としての提供方法の工夫、資料選定時の配慮など行っていきたい。

<飯島委員>

指定管理については市町村立図書館においても議論されている。メリット・デメリットについてより深めていくべきだと思う。

祝日開館の取組は素晴らしい。300日開館が目標となってきた中、現実には課題も多い。

また、相互貸借・横断検索は助かっているが、検索に時間がかかること、貸借の送料負

担について改善の可能性は。

<北原課長>

昨年度の祝日利用は、土日よりは少なく平日よりは多い状況で、スタートとしてはまずまずであった。希望・ニーズはあるが、職員の体制はギリギリであり大きな課題である。

<東方課長>

相互貸借の送料は、予算的に厳しく規程どおりの片道負担としたが、他県では協力車による配本でカバーしている例もあり、予算要求していきたい。

<館長>

今年2月の教育委員会でも説明を行っているが、予算全体が厳しい中であり、どう反映していくかは不透明。

<篠田主任>

横断検索のレスポンス（反応）の悪さは承知している。来年度以降のシステム更新の際改善するようにしたい。

<小林会長>

児童室の5時閉鎖は早い。児童書とは言え大人の利用もあるので開けておくことでより利用されるのでは。

<田中委員>

授乳室はあるのか。安心して利用できる施設であってほしい。

<館長>

部屋として独立してはいないが、授乳コーナーは設けてある。

<小林会長>

小さい時から図書館を利用できるのは大変良いこと。利用しやすい施設は、口コミでのママ友への広がり大きい。様々な世代の利用に対応できるよう工夫をして欲しい。

<若林委員>

広報については、メディア向け情報提供により知らない人の目に触れる機会が増えるので良い取組みと思う。学校でも、読書に関する取組みが強化されており、来館利用が見込まれる地域のケーブルテレビなどとも協力してPRしてはどうか。学校職員や保護者なども情報を求めている。

<東方課長>

現在は当館のホームページで随時お知らせする他、メールマガジンやプレスリリースで広報している。今後はメディアとの協力や館内展示でも工夫していきたい。

<小林会長>

メルマガもいいが、場所を確保して文字で見える形で広報して欲しい。

<玉城委員>

指定管理やネットワークの問題について、是非職員が現地を視察して欲しい。現地の職員と話すことで現実的なことも見え、情報も得られる。

<次長>

来月以降岩手県で、実際の運営状況を見てくる予定。県立図書館としての業務を職員がどう動かしているのか、よく見てきたい。旅費の予算は厳しいが、機会あるごとに他館の状況をよく見て、活かしていきたい。

<小林会長>

指定管理事業者として全国各地で展開している例もあり、実績も蓄積されてきているのでは。

<次長>

学校図書館について、生徒の調べ物はどの範囲で行っているか様子を伺いたい。

<若林委員>

授業の中では、学校図書館内で行っており、県立図書館から借りだす程のことはまだない。教師側の資料として利用したり、保護者が子供と利用している。

<小林委員>

広域行政という意味で、例えば千曲市では長野市南部図書館の利用カードがあれば、利用登録できるという扱いがある。市町村間で広い所狭い所様々だが、利用しやすくなって欲しい。

<東方課長>

ない資料を相互に利用する他、休館日の違いもあり施設もより活用できるよう工夫していただけたらと思う。

<小林会長>

図書館の現状やあり方について、よい協議ができたと思う。

以上で協議会を終了いたします。

<次長>

今期の協議会は今回で最後となります。ありがとうございました。